



かけ橋

秋田県立能代支援学校

No. 5 8

H29. 3. 16



一人一人を慈しみ可能性を実現する支援者に

能代支援学校 教頭 鈴木 幸子

「生まれてくれてありがとう」は本校校長室に掲げている額です。かつて玉井邦夫氏が本校に来校して講演してくださったときにプレゼントしてくださいました。玉井先生にはダウン症の子どもがおおり、大学で障害児教育を担当する教授であり、障害がある子どもの親でもあるという方でした。

かつて私が教育相談で対応した方が、「今は子どもが本当にかわいくなりました。でも、子どもを生んで障害があると知らされたときは、子どもをすぐ抱くことができなかつたんです」と率直に語っていました。

今日の前の保護者が、障害がある子どもを育ててくる中で、どんな思いを背負い、どんな苦しみと戦いながら生きていらっしゃるのか、本当に、私たちには想像を絶するものがあります。

私が、特別支援学校で担任をしていたときのエピソードです。

5年・6年の複式学級を担当したとき、児童は5人でした。自閉症のA子さん（5年生）は、言葉で意思を表現するのは難しいのですが、心地良いときは笑顔があり、時には「あー」と発声していやな感情を伝えます。T1の先生と話し合っ、A子さんが名前を呼ばれたときに「あー」と発声できるようにしようと決めました。保護者には伝えないで始めました。主な指導の場面は、朝の会でした。予想はしたものの、返事するのは難しく、みんなで「A子さん」と呼ぶと、大きな目を見開いて思わず息を飲み込むのです。本来はいやなときの「あー」ですから、返事として声を出すこと自体、A子さんも初めての経験です。しかし、諦めず、焦らず、指導を継続して進めました。周りの児童も雰囲気を感じて一緒に「A子さん」と呼び続けました。10月になったある日、思いが通じたのか、A子さんが少し変わってきたのです。飲み込んでいた息を吐くようになってきていました。そしてとうとうその日がやってきました。「A子さん！」でしばらくして「あー」という声が返ってきたのです。思わずもう1回「A子さん！」「あー」と言ったのです。担任も友達の児童も大歓声でした。しかし、もっと感動したのが帰るときでした。迎えに来た母親の前で「お母さん、A子さん、返事できるようになったんですよ」と得意げに伝えると、母親は「えっ？」と不思議な表情でした。そこで、「A子さん！」と呼ぶとA子さんが「あー」と答えたのです。お母さんはびっくり！お母さんも「A子さん」と呼びました。「あー」と返事をするA子さん。みるみるお母さんの目に涙があふれていました。

児童生徒が、できないことができるようになるのはとても難しいことです。でも諦めず、指導方法やTTの協力や保護者の応援等できることを検討しながら根気強く取り組むと、悩みが喜びに変わります。自分の挑戦目標を明確にして、教師にとっても充実した日々になることと思います。

担任には、障害がある子どもたちの可能性を信じながら、根気強く付き合う気構えが大切です。担任が二人以上のときはTTで十分話し合い、励まし合うこと。担任が一人のときは、誰を相談相手にするか工夫が必要ですが、個別の支援計画と個別の指導計画を作成しているので、保護者や本人との話し合いを充実させていくことです。また、小・中学校もチーム体制が整ってきています。特別支援学校を初め、関係機関との連携も広がってきています。まず、担任が子どもを中心にしたつながりを明確にするとともに、子どものことを相談できる相手を見付けることが肝心であると思います。

こんにちは よろしくね そして ありがとう

～小学部居住地校交流

本校小学部では、今年度地域の小学校10校に、17人が居住地校交流を実施することができました。今回はそのうち、三校の居住地校交流について御紹介します。



湖北小学校

1年生と3年生がそれぞれ音楽と体育の学習で交流しました。3年生の音楽の学習では、チャチャのリズムやタンブリンなどを鳴らして楽しみました。緊張しやすい本校の児童が、意欲的に取り組めるような題材・活動を提案していただき、交流を深めることができました。

八森小学校

今年度初めての交流で、居住地の児童と学級の児童3名も一緒に交流させていただきました。最初に八森小児童による群読披露に続き、紙飛行機をグループの友だちと作って一緒に飛ばし、風船バレーを楽しみました。八森小の友だちがお笑いを披露してくれたことで、緊張が一気にほぐれました。



湊城南小学校

一昨年ビデオレターの交流から始まり、今年度3回目の交流でした。今回、本校児童も興味があった外国語活動（英語）で交流しました。パートナーの友だちが案内してくれたり教えてくれたりしたことで、ゲームをやりながら一緒に英語を話すことができました。



八峰町版、三種町版ガイドブックできました

昨年度、居住地校交流を実施する際に参考にしてもらうために、能代市教育委員会から御理解いただき、交流及び共同学習のガイドブックを発行いたしました。今年度は、八峰町教育委員会、三種町教育委員会より御協力を頂き、八峰町版、三種町版を協働で作成しました。交流の打ち合わせなどで伺う際に随時配布しております。今後も実践例などを取り入れながら充実させて行く予定です。御協力本当にありがとうございます。

センター的機能 巡回相談・検査等の御利用ありがとうございました

今年度の能代支援学校のセンター的機能などでの巡回相談、知能検査・報告については幼稚園、保育所、認定こども園11回、小学校54回、中学校4回、高等学校2回でした。御利用ありがとうございました。

お問い合わせ
ご連絡は…



教頭 鈴木 幸子
特別支援教育コーディネーター 高橋 聡 山本 泉子（かけ橋担当）

TEL 0185-55-0691 FAX 0185-55-0681
ホームページ <http://www.noshiro-s.akita-pref.ed.jp>
E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp

本校ホームページの
地域支援部コーナー
に各種様式を掲載し
ております。